



みらいっうしん

9月号

2024 年 9 月 1 日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



【2学期に向けて】

立秋を迎え、ようやく夏の暑さの折り返し地点を過ぎました。朝、夕の頬を伝う風が少しずつ秋の訪れを感じさせています。今月は、残暑や台風等の影響で不安定な天候が予想されますので、引き続き体調には十分お気をつけください。

さて、8月は例年にない猛暑で熱中症アラートが発令されたり、局地的な大雨が降ったりと異常気象の影響で、夏風邪や溶連菌、手足口病、新型コロナ感染症などにかかった方が多かったと報告を受けています。こども園でも、健康状況を見ながら、園児の安全を第一に考えて保育を続けてまいりました。そんな中、園に通う子ども達は、夏ならではのプール・水遊びは、余りできませんでしたが園庭や保育室で好きな遊びを満足するまで楽しんでいました。遊びを見ていると、夏休みに体験した内容を取り入れていることが多く、子ども達にとって、遊びは生活そのものなのだなあと感じるほど、個人の生活体験が取り入れられ、たくさんの物事を学習していることが分かりました。また、8月の後半に、隣の新城小学校の先生が、地域のお子さんの様子を体験する研修に来られました。小学校のお子さんとこども園のお子さんの違いについて、細かく観察されていて、子どもの様子や態度、子ども一人一人の主張、子ども達の関わり、そして、子ども達に対しての職員の対応に、日頃忘れかけていたものを思い返させていただいたと感謝の言葉をいただきました。小学校では、どうしてもやらなくてはいけない課題があって、それを達成させるために、子ども達の思いを受け止められないことが多々あり、十分褒めることが少ないので、もう少し認めてあげることが大切だなと痛感したとのことでした。小学校では、特に、1年生に対しては、6年生と職員が中心になって子ども一人一人を丁寧に育てるので、今こども園が行っている内容をしっかりやっていたら大丈夫です。小学校就学準備のための文字、計算などのおけいこをするのではなく、楽しいことを見つけて、自分の思いを達成すること、友達と沢山関わることで、学びへの意欲を身につける方が、小学校からの生活に大きな力を発揮すると思います。と経験を通してお話してくださいました。改めて、みらいこども園の保育観に安堵感をいただきました。

今年も猛暑続きの夏でしたが、どこもかしこも人で溢れていましたね。子ども達からも、「おじいちゃんおばあちゃんに逢いに行ったよ」「温泉に泊まった!」「新幹線に乗った!」「飛行機に乗ったよ」「大きいプールに行ったよ」「花火したよ」「どこにも行かなかったけどパパとママと遊んだよ」等々、夏休みに体験した話を聞くことができ、それぞれが夏の季節を通して、一回り大きく成長したように感じます。この普段体験できない経験や感情は、きっと、これからの子ども達の生活に豊さを与え次へのステップの土台になると思います。

9月から、1号認定のお子さんを迎え、2学期がスタートしますが、今後も、大切なお子さんの命をお預かりしておりますので、今までと変わらず体調観察を徹底し、教育・保育を進めて参ります。お子様の成長は、家庭教育も重要ですので、親子のコミュニケーションの取り方や絆を深めていただき、将来を担う子どもたちを周囲の大人が手本となって一緒に「生き抜く力の基礎」を育てていきましょう。

どうぞよろしくお願いたします。



テントの下での水遊び

バグホテル



どんな虫が遊びに来るかな♪



小玉スイカの美味しさのあまり・・・

